大学出版

3号

'87
春

大学出版部協会

Association
of
Japanese University
Presses

北海道大学図書刊行会
Hokkaido University Press

慶應通信
Keio Tsushin Co., Ltd.

産業能率大学出版部
Sanno Institute of Business Administration

玉川大学出版部
Tamagawa University Press

中央大学出版部
Chuo University Press

東海大学出版会
Tokai University Press

東京大学出版会
University of Tokyo Press

東京電機大学出版局
Tokyo Denki University Press

東京農業大学出版会
Tokyo University of Agriculture Press

東京理科大学出版会
Science University of Tokyo Press

法政大学出版局
Hosei University Press

明星大学出版部
Meisei University Press

早稲田大学出版部
Waseda University Press

名古屋大学出版会
The University of Nagoya Press

関西大学出版部
Kansai University Press

九州大学出版会
Kyusyu University Press

大学出版
3号
Spring・1987

大学図書館の今日・明日　田中久文　1
変貌しつつある大学図書館　鈴木永祐　3
新しい大学図書館への試み　福田知行　5
九州大学出版会と私　水波　朗　7
第五回日韓大学出版合同セミナー　石井和夫　9
大学出版部ニュース　12
新刊案内 '86・10～'87・3　16
第8回（昭和61年度）日本生命財団刊行助成図書一覧　24

大学出版部協会の歩み

昭和38年（一九六三）6月11日　大学出版部協会設立総会、東京大学出版会館にて。玉川大学出版部、中央大学出版部、東海大学出版会、東京大学出版会、東京電機大学出版局、東京農業大学出版会、法政大学出版局、日本学術振興会、日本図書文化協会（東京教育大学）、早稲田大学出版部、以上十校代表者により大学出版部協会設立総会を行なう。大学出版部協会初代幹事長、箕輪成男。

昭和46年（一九七一）11月　関西大学出版部、協会加入。

昭和47年（一九七二）9月　北海道大学図書刊行会、協会加入。

同　年11月　アジア太平洋地域大学出版部会議《国際図書年》を記念して（第一回）東京開催、主催大学出版部協会。

昭和51年（一九七六）5月　国際学術出版会議（京都大会）および国際学術出版連合第二回総会を国立京都国際会議場にて開催。

同　年9月　新幹事長に中平千三郎（東京大学出版会）選出。九州大学出版会、協会加入。

同　年11月　玉川大学出版部・東海大学出版会、国際学術出版連合に加入。

昭和52年（一九七七）12月　東京電機大学出版局、協会再加入。

昭和53年（一九七八）2月　協会はじめて「大学出版部協会総合図書目録」一九七八年度版（合本）を刊行し、共同発送完了。以後年一回定期。

同　年5月　東京大学出版会にて、大学出版部協会設立十五周年記念として、「協会設立十五周年・回顧と展望」座談会を行なう。

同　年10月　大学出版部協会創立十五周年記念「大学出版図書展示即売会」を紀伊国屋書店PRルームにて開催。

同　年12月　明星大学出版部、協会加入。

昭和54年（一九七九）8月　産業能率大学出版部、協会加入。

昭和55年（一九八〇）7月　日本生命財団第一回出版助成の贈呈式と講演会。大阪・日本生命財団にて行なわれた。12月　慶應通信、協会加入。

昭和56年（一九八一）8月　韓国大学出版部協会訪日団の歓迎レセプション（日本出版クラブ）。

同　年9月　中国にて「日本大学出版物展覧会」を中国図書進出口総公司の主催、大学出版部協会の協賛により開催。

昭和57年（一九八二）9月　名古屋大学出版会、協会加入。

同　年9月　「日米大学出版局刊行物展」が、丸善主催、日米両国の大学出版部協会の協賛により丸善本店で開催。

昭和58年（一九八三）5月　大学出版部協会創立二〇周年記念講演会を新宿・紀伊国屋ホールにて開催。

昭和60年（一九八五）4月　新幹事長に石井和夫（東京大学出版会）選出。東京理科大学出版会、東京農業大学出版会協会加入。

同　年8月　中国大学出版部代表団、来日。

昭和61年（一九八六）9月　北京国際図書展へ大学出版部協会訪中代表団参加。

大学図書館の今日・明日

田中久文
（東京大学付属図書館事務部長）

情報化時代と言われるようになって久しいが、いわゆる新技術による各種の情報サービスが隆盛を見るようになった。伝統的な情報サービス機関であった図書館とのかかわりについては、一般にはあまり話題に乗らないようだが、大学・学術の世界では大学図書館が新しい学術情報流通体制の中で附加価値サービス機関として積極的な役割を担うものと期待されている。こうした未来への展望は別として、現在の大学図書館（とくに国立）の現状はまさに冬の時代といった感じがする。このような状況を最も敏感に感じておられるのは取引書店であろうと思う。

国立大学図書館のこの数年の図書購入状況を調べると、資料費は若干伸びてはいるものの、現実に購入した冊数はかなり減少している。（国立大学平均資料購入費、昭和60年度は対55年度比25％の増となっているが、購入冊数は18％の減となっている。公私立全体の平均ではそれぞれ52％、17％の増で、国立の落ち込みが著しい。）この五年間の推移でいま一つ興味のあることは、図書と雑誌の購入費の変化である。55年では63対37で図書費が圧倒的に高かったが、60年では53対47とほぼ同額に近づいてきている。一方、公私立での55年72対28、60年67対33と相対的には雑誌費が増大しているがまだ図書費が圧倒的に高いことがわかる。この国立と公私立の違いは資料費の使い方の違いと言うより、大学のカバーする学問領域から来るものと考えられる。

文部省の統計ではそのあたりの詳細はわからないので、東大での状況から類推すると、理系学部と文系学部の図書・雑誌の比率を見ると、それぞれ26対74、81対19で、常識的なことながら理系と文系での資料費の使用区分の違いがわかる。国立は公私立総体に比べて理系の部局が多く、学生数、研究者数もずっと比率が高い。従って一般的に国立では雑誌購入にあてる予算が相対的に多いことは理解できるとしても、この数年間における伸張ぶりをどう理解するか。国立でこの間、理系学部・学科の増設だけでなく教育系など文系の新設や拡充も見られるので、理・文の構成比率の拡大とは思えない。東大の理系で見られるとおり、極端に図書の費用は少なく、近年は、とても図書を買う余裕はないという声が多い。このことがはからずも、この数年間での国立の雑誌費の比の増加の数字からも読みとれるのである。雑誌を購読する予算が増えたのではなく、雑誌しか買えなくなってきていると理解するべきであろう。そのことが結果的には増加冊数の減少につながっている。

国立でのいま一つの特徴を見ると、資料費の中で外国出版物の占める率が高いことである。約70％相当の予算がこれにあてられているのに対し、公私立では60％未満である。このことも、研究活動が国際的競争下にある理系の多い国立では海外情報の摂取に熱心にならざるを得ない状況を表わしていると考えられる。このことは逆に言えば国内図書の収集力が国立では相当低下していることを表わしている。

資料収集の面における国立での現今の共通問題の一つは、いわゆる大型二次資料と言われている外国産の高額の索引抄録逐次刊行物が購読不可能となりつつあることである。国立大学中最大の資料費を有する東大がすでに継続できずキャンセルしたものがあり、さらに拡大しつつある。東大以外の大学では更に深刻な状態になっているかというと、必ずしも客観的にはそうでもない、というところに東大独自の問題点が存することになるが、いまはこれを論ずる場ではない。

今日の国立の問題は蒐書力の絶対的な低下だけでなく、一方では収集すべき重要な情報の生産・流通の増加があり、この二つの要素が深刻さを相乗していると言えるのである。このような情報問題に対処する国家的方策として、文部省では情報資源の共有を基本理念として、「学術情報システム」の確立を推進してきた。これはまさに緒についたばかりではあるが、今後も着実に発展していくことを期待している。これにより大学図書館の明日への道に少し曙光がのぞめる感じがするのである。

最近ペーパレス・ライブラリーや電子図書館という新語が造られているが、今後の情報流通の一つの姿を言い表わしてはいる。この新しい図書館は在来の図書館とはかなり異形の存在である。在来型はマスプロ情報のサービス拠点として、エンドユーザーがその大量情報の中から必要とするものを自分で抽出する形で情報にアクセスしてきた。この限りでは各図書館は潜在的利用者のために、大量の他の図書館とはほぼ同じ資料を収集してきた。それらの資料はマスプロされるから資料単体としては安価に生産されているように見えるが、真に必要とする情報はその中のほんの一部であるから、その観点からすると資料を整備し運用する経費全体から見ると非常に高いものについているという考え方もできる。

電子図書館は遠隔地から on-demand で必要な情報だけを提供することになるからその直接的な対価は割高感はあるが、総合的に見ると経済的かもしれない。このことは例えば新聞について妥当する。新聞の保存運用は図書館にとっては頭の痛い問題であるが、今秋からサービスを始めるという大手新聞社等の共同出資によるＥＬ（エレクトロニック・ライブラリー）社は一つの新世代の図書館を具現することになろう。

在来型の図書館、とくに学術的図書館では遠くない将来、サービスの質的向上の面からのみならず、経営管理的な面からも、このような新しい情報機関との適切な依存関係を積極的に考えていく必要がある。

変貌しつつある大学図書館

鈴木　永祐
（立命館大学図書館運営課収書係）

1　はじめに

多くの大学図書館が近年、図書業務の電算化を実施し、あるいは実施に向けた検討を行っている。一九八六年四月の文部省「学術情報センター」の発足は、そうした各大学図書館の動きに一層拍車をかけているようである。

日本よりも「情報化社会」として数年先行しているアメリカにおいては、「紙の印刷物によるコミュニケーションから電子的コミュニケーションへと移行する自然な進化の初期段階にある」と規定し、「ペーパーレス図書館」の可能性やそのもとでの図書館・図書館員の役割について「図書館に未来はあるか」とショッキングな問いかけをした注目の本が刊行された（F・W・ランカスター著『紙からエレクトロニクスへ』日外アソシエーツ）。

この本に紹介されているような段階までには至っていないが、日本においても最近、電子形態での「出版」（百科事典のCD－ROM化）などの動きも出始め、ニューメディアの波が徐々にではあるが、図書館にも押し寄せようとしている。

2　利用者のためのサービス向上に向けて
－立命館大学図書館のとりくみ－

いうまでもなく、図書業務における電算化の方向は、単なる省力化・合理化であってはならず、あくまで、「利用者のためのサービス向上にとって、どれだけ貢献できるのか？」の視点が必要であろう。

立命館大学図書館においても、近年図書業務の電算化の検討が進みつつある（貸出・返却システムは一九八六年四月より稼働）。

図書業務を電算化するためには、必然的に現行業務の見直しが必要になってくる。その際大切であると思われるのは、先に述べた「利用者のためのサービス」を基準に考えるということである。それは、とりわけ、「入口」である図書資料の選択・収集段階と、「出口」である利用サービスの段階で重要であるように思われる。

本学の図書館は、学生を主たる奉仕対象とした「（中央）図書館」と教員・大学院生を奉仕対象とした学部共同研究室・研究所等の「部局図書室」で構成されているが、トータルに見ればその奉仕対象者の範囲は広く、また、研究・教育の対象となる学問分野もかなり広範にわたっている。近年、「（中央）図書館」に対しても「学習図書館機能」の

発展・充実に加えて「研究図書館機能」の充実に関する要請が高まっている。「学習図書館機能」と「研究図書館機能」を完全に切り離すのは不適切であるうえ、今日のように図書資料の高騰や限られた図書予算の中での「やりくり」が求められている状況のもとでは、利用者の要請に対し可能な限り効果的に収集しなければならない。「(中央)図書館」では、学際的分野の図書資料や、大規模で高価な資料とりわけ二次資料などの「基本図書」の整備にも重点を置き、研究者などからの「研究図書館機能」への期待・要望にも応えようと努力している。

3　大学出版部への期待

本学の図書館では、一九八五年一月以降、立命館大学生活協同組合書籍部を通じて大学出版部協会会員出版部の新刊書の「見計らい納本」制度(返品条件付)を導入している。この制度は、大学出版部の新刊書のうち、本学の学部構成にない医学・薬学等の特定の分野の図書や、実用書、高額図書や復刻図書を除いて(後の二者は事前に電話等で納品の必要性についての確認の後)全出版物について、刊行のたびに「自動的に」見計らい納本を受けるものである。

実際の図書選定に当たっては、大学出版部の出版物については、学術書を中心に、常に高い水準を維持されているので、私ども現場の図書館員は「安心して」選定出来るという高い信頼を置いている。現状においては、和書の新刊見計らい納本を複数の書店より行っている関係でストレートな形で「新刊納本」となっていない状況にあるが、今後、より一歩進めて、完全な「ブランケットオーダー」方式を導入する必要があると考えている。

研究に必要な図書資料には、いわゆる「非流通図書」も多く、現場の図書館員がそうした「非流通図書」などの収集に対しても「能動的に」収集できるような条件を設定することが望まれる。上記のような「ブランケットオー

ダー」方式の拡大により一定の改善は可能であると思われる。

しかし、大学出版部が、これまでの到達点のうえに「学術出版の意義」をふまえて「採算ベース」に乗りにくい優れた「学術資料」等をどしどし出版し、世に送り出す活動をしていただくことが、より重要ではないかと「無理な注文」をつけて一大学図書館員の「報告」を終りたい。（編集部から頂いた「壮大な」テーマには、ほど遠い内容になってしまったが、ご容赦願いたい。）

新しい大学図書館への試み

福田　知行
（上智大学図書館事務部長事務取扱）

上智大学では昭和五二年以来、当時のピタウ学長のもとに、内外の専門家の助言をえながら上智大学第三次一〇年計画の総仕上げとして新中央図書館の建設計画を推し進め、五九年四月より収容能力一四〇万冊、数々の設備・機能をそなえた「中央図書館・総合研究棟」として新しい図書館をスタートさせました。

そしてその延長路線上に、図書館では六〇年に「蔵書充実中期計画」をまとめ、蔵書充実へ動きだしました。当時、上智大学図書館の規模は蔵書数約四〇万で、六学部、専任教員約五四〇名、学生数約一万を擁する大学としては質・量ともに貧弱なものでした。これを改善し、名実ともに中味の濃い図書館に生まれ変わろうとしたのです。

勿論、蔵書充実は一朝一夕になるものではなく、また、現代社会において大学図書館を取り巻く環境は学術情報の拡大・拡散・システム化、コンピュータ技術の浸透、資料

の量的増加、資料形態の多様化と激動の中にあることを充分意識しながら、活動しなければなりません。その中で上智大学図書館は現在、新しい技術を積極的に取り入れつつ、従来の手続き・保存にこだわらず、利用者ニーズを予見し、引出し、活性化させるために図書館は活動すべきであると考え、図書館がリーダーシップをとりながら、教員との調整を図り、学生の要望に応えつつ、選書体制を確立させる方向に動きだしました。

上智大学新図書館竣工式の際に西ドイツ・ケルン大司教ヘフナー枢機卿は以下のような祝辞を寄せられました。

歴史というものが可能なのは、人間が、獲得したものを保持し、それを遺産として残すと同時に、新しいものを創造しながら未来を形成しうるからであります。確かに、かつてあったもの全てのものが保持するに値するわけではありません。旧来のものを捨て去る当然の権利もありますが、決定的なことは、旧来のものとはなにかということであります。伝統とは灰を保持することではなく、炎を燃え上がらせておくことであります。

教員・研究者ばかりではなく、学生に対しても、高等教育の変化を強いられつつある現状では大学図書館では、より積極的な対応が必要とされましょう。

選書体制の確立、蔵書見直し作業を計画しているところに飛び込んできたのが、大学出版部協会からの「欠落本調査」と「新刊自動配本」の話でした。かねがね、図書館蔵書の充実のためにこのような作業が必要であると考えていただけに、予算的措置等、早速処置いたしました。上智大学図書館は、コンピュータ、ディジタル情報等ニューメディアを中心とする新しい技術に対応しつつも、図書を読むと言う基本的な知的活動をバックアップする気構えであります。そのためにも、大学出版部協会関係者の方々にはさらに知的にエキサイティングな図書資料をどしどし企画刊行していただきたいと期待いたします。

九州大学出版会と私

水波　朗
（九州大学名誉教授
現久留米大学法学部教授）

九州大学出版会は、今から十三年前、二年ほどの準備期を経て正式に発足した。準備のための有志の初期の会合には、日本の大学出版会の発展に志の厚い東京大学出版会の中平千三郎氏が、わざわざ福岡にきて貴重な示唆とその後の援助の約束とを与えて下さった。九州大学出版会は国立大学の関与する財団法人の大学出版会としては全国二番目のもので、一番目の東京大学出版会が財団法人として発足してから二十数年目である。その間、全国のいくつかの有力大学で有志達の熱心な各大学の出版会創立の努力があったにもかかわらず、なぜ文部省が第二番目のものを長年月の間認可しなかったのかについては、種々複雑な理由が考えられる。この「抑制」をわが九州大学出版会が突破できたのは、九州大学出版会の場合、西日本一帯の三十の国・公・私立大学を加盟校として糾合した地域綜合の大学出版会とするというユニークな発想のお蔭であった、と信じている。最近同じ発想で第三番目のものとして名古屋大学出版会が財団法人の認可を受け、隆々発展の途につかれたのは、御同慶の至りである。

近頃大学出版会創立の動きは改めてにわかに全国各地にあり、名古屋大学出版会の場合がそうであったが、他に数大学から御相談を受けている。わたしは中平氏からうけた恩義を他に返す意味をこめて、欣んで不十分なものながら御参考までに私見を述べている。中平氏や同じく東京大学出版会の石井和夫氏と志を同じくして、わが国の大学出版会発展のために、今後もそうしたいと考えている。

わたしは九州大学出版会の創設を九州大学工学部の太田静六教授とともに九大全学に呼びかけ、基金を集めた。それに当時わたしは法学部長であるとともに日本学術会議の会員であったことに、大きな便宜をえた。というのは西日本一帯に出版会の基盤を拡げようとして眺めわたしてみると、学術会議で一緒であった年長の方々があちこちで学長を勤めておいでであったからである。それはともかく地域綜合の大学出版会として九州大学出版会は無事発足し、初代理事長の問田直幹教授の後をうけて、十年間理事長として、経営の文字通り陣頭指揮をとった。チョーク片手に、競争の激しい出版業のワンマン社長を兼ねるとは、何とも珍奇な大学教授ではある、と自分でも自覚してきた。それにしてもまことに多数の方々のお援けをえたお蔭で、この

十年間に出版会はようやく創草期の基盤を固め終え、今後の一段の飛躍の条件づくりはできたようである。昨年三月九州大学を退官したのを機として、後任に適任の緒方道彦教授をえ、わたしは安んじて理事長を退いたことであった。

学術出版に奮闘したわたしの十年の経験から体得した「経営の哲学」は、考えてみれば平凡な次の二つのことに尽きる。第一には、最高度にアカデミックな学術書を、年々何冊かは万難を排して出すべきこと。そうでなければ何のための大学出版会か、ということになる。これは良質の教科書、平易で有益な啓蒙書を出版して、学生や世間一般の人達に奉仕することの意義を軽んずることを意味しないし、できるだけ多く制作物を扱って出版会の経理の辻褄を合わせる必要を否定することでもない。しかし、学術出版社の評価が定まるのは、もっぱらトップ・レヴェルの学術書を年々何冊出し、そしてつまらぬ学術書をどれだけ少なく出すかによってである。この点での毎年の成果がなければ、編集者をはじめとした関係者の間に、徒労感が残るだけである。

第二には、長期的には最高度にアカデミックな古典的学術書だけが、出版会の財政を固めることである。そうした書物は、出版の当座はけっしてペイしない。これは誰の眼にも瞭らかである。さればこそ誰かの金銭的犠牲がなければ、学術出版は成り立たない。その誰かとは、或は著者自身である。文部省の学術出版助成金ならば、税金を払う国民である。何かの財団ならば、それに基金を寄せた企業なり個人なりである。しかし学術出版社の年々出版する学術書の十冊のうちに一、二冊の名著があって、十年経ち三十年経っても毎年確実に数十冊の販売があるならば、それだけが学術出版社の財産となって、その出版社の財政を支える基盤となる。それ以外のすべての出版物は、二、三年で需要がバッタリ絶えて、本当の意味で出版社の財政を潤すことにならない。

十年かかって体得した右の学術出版の「秘訣」に鑑みて、わたしは理事長退任を自ら記念し些か基金を都合して、「法と国家」翻訳叢書を、九州大学出版会の刊行書として創設した。基金がなければ絶対に出版しえない西欧の古典中の古典の翻訳を、それも時に千頁にも千二百頁にもなる大部のものを選んで出そうというわけである。内容で勝負するものであるだけに、書物と訳者を選ぶ編集責任者としてのわたしの任は重い。失敗すれば、わたしの鑑識眼の凡庸さのせいである。わたしはこれによって、一方では学術出版社としての九州大学出版会の評価を全国第一流のものとし、他方ではこの出版会の財政的基礎を固めようとしているのである。その第一冊としてすでに昨年刊行したドラテ著『ルソーとその時代の政治学』（西嶋法友訳）および第二冊としてのワルドー著『行政国家』（山崎克明訳）は、それぞれ立派な訳者をえて、幸いにして好評で、売行きも大い

に順調である。この仕事は、わたしの余生の楽しみである。

これとは反対に、もしかすると九州大学出版会の声価を堕とすことになりはしないかと危ぶまれ、出版会の財産とはなるまいとも見込まれるわたしの二冊の大著を、この出版会からつい最近刊行している。目次の編成から装幀にいたるまで双児のように似通った姉妹書で、一は『トマス主義の法哲学――法哲学論文選――』と題され、他は『トマス主義の憲法学――国法学論文選――』と銘打たれている。これらは、九州大学法学部でのわたしの四十年におよぶ研究生活の一応の総決算である。

そこで後者についていえば、トマス主義の憲法学はここ数十年のフランス憲法学の主流だ、とそこに書いているが、肝腎の「トマス主義」という言葉を知っているのはわが国の憲法学者では稀なのだから、これは反時代的考察もはなはだしいもので、この書物が大いに売れる見込などはない。また日本の法哲学者達はさすがに「トマス主義」の名は知っているが、前者の書物もはたしてどれほどの人が理解してくれるだろうか。しかし人生の大事は大てい慮外のもので、功利を超える。わたしが九州大学出版会の仕事に惚れ込んでそれとの「心中」も辞せじと思い詰め、十数年に亙ってこれに自分の情熱と愛情を注ぎ込んだその出版会が、わたしのために生んでくれたわたし達の「愛の結晶」と、この双児は言えないだろうか。

第五回日韓大学出版合同セミナー

石井和夫
（大学出版部協会幹事長
東京大学出版会専務理事）

韓国大学出版部協会の尹絲淳会長から鄭重な招請状が届いたのは、昨一九八六年九月末のことであった。

十一月十四日から十六日まで、全羅南道光州市において第五回大学出版セミナーを開催する。共通論題は「著作権法の改正と対処方案」、日本側には「日本における著作権法の施行現況」を外国人著作権の保護を中心に紹介してほしい。できるだけ多数の参加を期待する、と。

ベルヌ条約（文学的及び美術的著作物の保護に関する国際協定、一八八六年）が締結されてちょうど百年、その記念すべき年に、韓国大学出版部が懸案の国際著作権条約加盟をめぐって具体的に討議する意義は大きい。協会幹事会は尹会長の要請を積極的に受けとめ、私をその報告者に指名した。

日本のベルヌ条約加盟は一八九九年のことである。明治中期、翻訳ブームにわく中での条約加盟には、出版界から

尹会長への記念品贈呈

かなりの抵抗があったと聞く。しかし、その一方に治外法権撤廃という国民的悲願があった。多国間の法協定への参加は、その実現への一歩でもあったのである。よりよき国際化をめざした先覚者の見識、さらに戦後の日本における著作権上のいくつかの変遷についての紹介も意味があろう。幸い、翻訳書の刊行については協会の研修会で論議もし、「翻訳出版の手引」もできている。私は早速、報告要旨を韓国に送り、これで結構との返事を得た。一応、責任は果せそうである。参加者も十一月初めには顔をそろえた。

明星大学出版部の小川哲生教授と三浦邦宏営業所長、産業能率大学出版部の小野沢公男代表取締役、東京理科大学出版会の後藤善治財務部長、それにオブザーバーとして東弘通信社の佐久間瑞夫取締役、私を含めて六人。このうち、小野沢、三浦の両氏は前の韓国セミナー出席の経験をもつ。これで安心と一息ついた。だが、藤尾発言問題が気にかかる。

十一月十三日昼下り、金浦空港におり立ったわれわれを、韓国大学出版部協会の権赫雨事務局長と高麗大学出版部の金文雄さんとが、にこやかな笑顔で迎えて下さった。「今日は四温のはじまり、昨日までは寒かったですよ」と見上げる初冬の日差しがやわらかい。その温もりが次第に肩の力をほぐしていくのを、私は感じていた。

日韓大学出版部の交流は一九七二年のアジア太平洋大学出版部会議にはじまる。しかし、合同セミナーとしての定着はもっぱらソウル大学出版部の李恒部長（当時の韓国大学出版部協会会長）の熱意にかかわっている。そのころ韓国の大学出版部は三四校、日本の一三校に比べてはるかに盛況であった。にもかかわらず、李会長は韓国各大学の出版部長がすべて教授で実務にタッチしていないことから、日本の現場中心主義に注目し、あえて実務者レベルの交流を提唱されたのであった。

以来、八二年には俗離山で〝大学出版の広告とPR〟をとりあげ、八三年は東京におけるわが協会の二十周年記念行事に朴承薫建国大学出版部長以下の代表団が参加され、八四年は釜山で〝大学出版部の位置と課題〟を論じ、八五年には林鍾哲ソウル大学出版部長以下を高萩に迎えて〝新しい大学教材の開発〟について討議し、ともに筑波科学万

博の見学を楽しんだ。そして今回、全南大学出版部をホストに〝著作権〟を主題とするセミナーの開催となったのである。

全羅南道光州はソウルから快速列車セマウル号で六時間、韓半島の西南の端近くに位置する。その名は一九八〇年五月の流血の抗争でわれわれの記憶に新しい。古くは一九二九年十一月、植民地奴隷教育制度撤廃を叫んで立ち上った反日独立運動の故地でもある。金永寅総長を表敬すべく大学本部を訪れたわれわれの前を民族衣装の男女学生の一団が駆けぬけていった。デモの先頭に立つのだそうだ。熱い血はいまなおたぎっているのであろう。

全南大学校講堂における報告

セミナー会場には韓国大学出版部協会加盟五三大学のうち四三大学六五名が集まり、われわれ日本からの参加者六名を温い拍手で迎えて下さった。すでに報告要旨は韓国語に訳され、小冊子として配布されている。周到な準備に脱帽。

まず韓勝憲弁護士が著作権法改正の概要を説明、アメリカとの二国間協定の進捗と問題点について述べられた。それをふまえた、われわれのマニュアルに即した説明は、一般論より具体例をという趣旨にそっていたのであろうか、著作権保有者の確認や交渉の仕方、著作権料、とくに前渡金の支払いや定価への影響など、活発な質問が相いつぎ、手応えが感じられて嬉しかった。それもひとえに、司会（通訳）をつとめられた琴東信檀国大学出版部長（法学部教授）のおかげである。記して厚くお礼を申し上げたい。

セミナー最後の日の午后、参加者全員で木浦に周遊した。バスで席を隣り合った方が、小学校二年まで日本語を習ったと「夕焼け小焼け」を歌って下さった。その方が藤尾発言について質す語気は鋭かった。おそらく、ずっとこのことにこだわりつづけておられたのであろう。私は語りあいながら、この問題の根の深さにあらためておののきを禁じえなかった。

北海道大学図書刊行会

■田中彰著『明治維新観の研究』（四〇〇〇円）が刊行の運びとなった。著者のライフワークのひとつで、維新観は同時に各時代の現代論であるという点にその眼目がある。着想それ自体が卓抜したもので、さらに多彩な分析視角から論を展開しており、今後の「維新論」を考えるうえで不可避の論点を提供してくれる。■年末に出版した新穂栄蔵著『ストーブ博物館』（一四〇〇円）は、当事者の不安をよそに、各紙誌の紹介もよろしく、2ヶ月で増刷となった。これまでに類書が全くない、というオリジナリティのインパクトをいささか見損じていた、と反省することしきりである。同様のケースが最近増加しており、過剰在庫に苦しむよりはましであるとはいえ、部数決定の際に生じるためらいを如何にすべきか。

慶應通信

当社では昭和二十八年から月刊教育誌「教育と医学」（A5判一〇〇ページ）を刊行しております。編集は九州大学を中心として組織された教育・心理・医学の専門学者の結びつきである「教育と医学の会」です。

本誌は毎号特集を企画し、乳幼児期・胎生期から青少年・成人・老年期にいたる教育や健康、生活上の諸問題を、広く心理・社会・医学などの面から多角的にとりあげて、幅広い総合的な知識と考え方を読者に提供しております（最近の特集・二月＝記憶とその病理、三月＝カウンセリング、四月＝リハビリテーション、五月＝入学試験を問い直す）。本誌は各種教育機関・施設、相談所、医療・保育機関、カウンセリング・矯正関係など教育と医療、その関連領域の方々に大変好評を得ております。

産業能率大学出版部

六十一年十月発売以来四ヵ月で十四版・五万部を突破して、好調に売れ続けているのが『青春という名の詩』である。著者は、宇野収、作山宗久の両氏。定価1200円。マネジメント書中心である当出版部の本としては異色の書といえる。

本詩は、一部の著名財界人の間では、昔から知られた詩で、幻の詩人といわれるサムエル・ウルマンによって作詩されたものである。「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。……年を重ねるだけでは人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」。本書は、ウルマンの実像と詩の淵源に迫り、著者の執念と情熱が脈打つ書。日経新聞コラム、朝日新聞、毎日新聞など、大々的にとりあげられ絶賛された。現代人の心に潤いを与えてくれる書である。

玉川大学出版部

〈書評抄録〉『ラファエルの宗教画』H・ファルク＝イッター著、新田義之他訳／定価六五〇〇円

巨匠ラファエルの代表作にローマ法王庁署名の間のフレスコ画がある。本書はそのうちの二面をなす「宗論図」と「アテネの学園」について神学・哲学・美学上の広い学識をもとに、詳細でかつ独得な解釈を試みたものである。独得というのは、著者がルドルフ・シュタイナー神学をうけついでいるからである。……

西欧の伝統的絵画を味わうためには、感覚体験に頼るだけでは足りない。現代イコノロジーの成果をも導入し、この二面の大作にあらわれた百人をこえる人物像の知的解読の糸口を与えようとする本書は、一種の啓蒙書としても読める。

『朝日新聞』評

中央大学出版部

『核兵器と科学者の責任』

SDI（戦略防衛構想）は、レーガン大統領がSF映画『スター・ウォーズ』にヒントをえた元俳優らしい思いつきだという。その実態は、宇宙を含む核戦争の危険性を一層高める、SOI（戦略攻撃構想）ともいうべきものであろう。あらためて科学者の責任が問われる。

この意味で、核兵器の使用はいうに及ばず、製造そのものの違法性を明らかにし、それに携わる科学者の責任を道義上の問題としてではなく法的な問題として厳しく論及する本書は他に類をみない。

核開発に関与する科学者は、国家の命令や研究の自由原則などの抗弁事由をもってしても免責されないと説く著者は、狂気の核時代から人類を救う唯一の道を真摯に訴える。

東海大学出版会

今年度は創立25周年を迎えることになりイベントの開催や記念出版、PR誌の刷新などを予定しております。

イベントは六月二十五日の午後、新宿紀伊國屋ホールにて斬新な発想と構成による公開セミナーを企画しています。オーディオビジュアルの時代を迎えていかに大学出版部のイメージから飛躍できるかに挑戦したいと考えています。記念出版物は「科学のカタログ」、「写真集」などを予定。PR誌「科学サロン」は四月二十日刊行の41号（特集・記号論の歴史と現在）から誌名を「**かがくさろん**」と改めて季刊から隔月刊へと一歩前進、とりあげるテーマも科学技術のみでなく人文社会分野まで枠を広げています。記念に二年間以上の定期購読予約者にバインダーをプレゼント中。

東京大学出版会

「一九八七年、いま『新しい世界史』の扉を開く」と銘打って昨年末より刊行を開始した「**新しい世界史**」（全12巻）は、既に

小谷汪之**大地の子**

山内昌之**スルタンガリエフの夢**

増谷英樹**ビラの中の革命**

南塚信吾**静かな革命**

の四巻を世に送り、いずれも好評のうちに迎えられている。

「西欧中心に組み立てられがちな近代世界の枠組みに修正を迫る意欲的な試みとして注目される。続刊の作品にも期待したい。」（朝日新聞他）と、早くも完結が待たれているが、担当編集者は、シリーズの順調なすべり出しに気をよくしながらも、刊行予定表を睨みながら、今日も原稿獲得に余念がない。

世界史のいわば〝最も熱い部分〟「**ベイルート**」で完結する予定である。乞うご期待！

東京電機大学出版部

〈話題の本〉

エネルギー変換技術／A5判・二八〇頁・二八〇〇円

エネルギー問題は食糧問題と並んで国家安全保障の見地からも、現在・未来を問わずたえず存在し、単なるエネルギー源の一つである石油価格にふり回されるにはあまりに大きい問題であるとして、エネルギー変換懇話会（DEC）と日本科学振興財団との共編によるこの十年間の総ざらいと、〝これからどうなる〟を究明（日刊工業新聞）

衛星通信／A5判・一八〇頁・二二〇〇円

国際通信ですでに確固たる地位を占めている衛星通信を、基礎概念から最新の情報まで平易に解説。（科学新聞・日経産業新聞）

東京農業大学出版会

日本の醸造とこうじ（東京農業大学・学術映画シリーズ　16ミリ、カラー、21分）この映画は醸造学を学ぶ学生と醸造場で働く社会人を対象にしている。酒、酢、味噌、醤油などは昔からこうじを利用して作られてきた。まず、微生物である黄こうじ菌を穀物に植えつけてこうじを作るが、こうじの生産する各種の酵素は原料中のデンプンとタンパク質を分解した糖とアミノ酸は酵母などの発酵微生物の栄養源となり、黄こうじ菌の作用をうけ各種の醸造食品が作られる。日本酒はこのように微生物の生態系をうまく生かしたところに特徴がある。映画は日本酒製造におけるこうじの特性と役割を、伝統的な醸造工程を通じて顕微鏡撮影を用いながら、学習者にわかり易いように構成されている。

東京理科大学出版会

SUT BULLETIN　明日をひらく科学教養誌

本誌は、科学の新知見・新技術が人間性の高揚、人類の繁栄にどのように生かされるべきかを常に問いかけ、誰にも楽しく科学知識が得られるように平易な文章で綴り、さらに高度なインフォメーションであることをモットーに編集しております。毎号特集を中心に企画しています。

【62年度】

光と生活（1月）
経営の新しいトピックス（2月）
ホルモンの営み（3月）
先端技術を支える基礎技術（4月）
和算（5月）
森林の科学（6月）

大学出版部ニュース

法政大学出版局

●書評抄録

三光　長治　著『**エルザの夢**――新しいワーグナー像を求めて』

著者は一〇年前に漸く日の目を見た妻コジマの『日記』を活用し、時代と社会の動向を常に視野に入れつつ、ワーグナーの作品と生涯という巨大な対象の雑多な細部に分け入ってあたうかぎり連関を探り出そうとしている。息の長い粘り強いその方法は結果としてワーグナーにまつわる幾多の「伝説」の正体を暴露した。…　**朝日ジャーナル評**…複雑をきわめた多面的なワーグナーの内面にわけ入ることにより、その本質に迫り、そうすれば到達できるであろう展望台から、あらためてワーグナーの諸作品を仰ぎ見ようとする…。一読してワーグナー公演にのぞめば、得るところが極めて大きいだろう。　**日本経済新聞評**

明星大学出版部

男沢淳著『**図書館と情報**』（定価一七〇〇円）図書館活動に影響を与えるものは、図書館資料ばかりでなく、図書館が存在する社会そのものの変化である。昨今、高度情報化社会の到来が告げられているが、これは近年における、学問、科学・技術の進歩、産業・経済の発展、さらにはコンピュータ、通信機器の著しい発達・普及によってもたらされたものである。本書は、基本的には伝統的図書館学にスタンスをとりながら広く、隣接諸科学の進歩を取り入れ、かつ図書館をめぐる環境変化の状況を的確に解説している図書館・情報学通論である。図書館員の自己啓発用にも大いに役立つであろう。（丸善ライブラリーニュース）なお、明星大学図書館学講座Ⅱは『**図書館と漢籍**』松見弘道著が予定されている。

早稲田大学出版部

ハーヴァード大と早稲田大の出版部史が昨年刊行された。東大出版会『UP』三月号のコラム「学術出版」はこのことを紹介したあと、およそ次のように述べている。「早大史をみると、一九一二年七月に早大を訪れたハ大のエリオット先生が校外教育の仕組みがあることを聞いて大いに賞めてくれた、とある。ハ大史を繙くと、エリオット先生とはCharles William Eliotであることが分る。ハ大出版部は翌一九一三年に設立された。解逅から四分の三世紀、期せずして同じ年に歴史が出版されたのは奇縁というべきか。」

奇縁は更につづく。五月に小部が刊行する六三〇頁に及ぶ労作、市村尚久著『**アメリカ六・三制の成立過程**』の第一章は、「C・W・エリオットの学校教育制度改革の思想」である。

関西大学出版部

◆新刊紹介　泉澄一著『**釜山窯の史的研究**』日本人の海外活動はあり得ないと思われている江戸時代に、朝鮮釜山に日本人の開いた陶窯があった。寛永～寛保期のほぼ百年間に対馬藩が対朝鮮外交・貿易の拠点とした釜山倭館内に経営した釜山窯がそれである。本書は対馬の宗家文書を根幹にすえ釜山窯および窯史について学問的にメスを入れたわが国最初の体系的研究書。

◆本が一体どの地域でどの程度購入されたかは出版人の関心事であろう。最近本出版部専門書の地域別注文売上状況を調べた結果、関東地域50％、関西25％、中部10％、その他15％であった。これは三年前の比率とほぼ同様で、これから見る限り、専門書のマーケットは、テーマにもよろうが、大学の所在する密度に比例するように思われる。

名古屋大学出版会

〈新刊案内〉

資本主義世界経済Ⅰ　I・ウォーラステイン著・藤瀬浩司他訳　A5判・二五〇頁・二五〇〇円

『近代世界システム』により、「世界システム」という新視角から資本主義史を捉え直し、現代の社会諸科学に圧倒的影響を与え続けている著者の第一論文集。待望の翻訳。

暗黒への旅立ち―西欧近代自我とその図像―　荻野昌利著　A5判・五〇〇頁・五二〇〇円

近代ヨーロッパに成立した自我意識が辿らねばならなかった変容と解体の過程を、イギリスの文学と絵画を通して追求。図像学を駆使して書かれたユニークなロマン主義文学論。

学窓雑記　飯島宗一著　四六判・四〇〇頁・二〇〇〇円

名古屋大学学長である著者が洗練された文章で綴る随想集。

九州大学出版会

▼六一年度文部省助成図書（科学研究費補助金研究成果公開促進費と正確に記せと注意された）四点。市川信愛『**華僑社会経済論序説**』、中楯興編著『**日本における海洋民の総合研究・上**』、原田溥『**ドイツ社会民主党と農業問題**』、長野暹編著『**「佐賀の役」と地域社会**』。六二年度九点申請中。▼中島源雄（本田技研）『**交通安全の研究**』は国際交通安全学会の協力で、人－車系を中心に予防安全という未分化な問題を初めて体系化した。▼杣正夫編『**日本の総選挙一九八六年**』は各誌紙で紹介され、実証的資料として政治学のゼミでも適当とされている。「……総選挙は政治指導者の選択を含めて、国民の政策の選択が主として問われる場ではない。……特殊に権力の配分を優先してとりあげられる」（序論より）。

新刊案内 '86・10〜'87・3

■北海道大学図書刊行会

北海道主要樹木図譜〔普及版〕宮部・工藤著／須崎画　四八〇〇円
ストーブ博物館　新穂　栄蔵　一四〇〇円
W・S・クラーク〔新装版〕　J・M・マキ／高久真一訳　二四〇〇円
林政学研究　小関　隆祺　五四〇〇円
法学・政治学の動向　北海学園大学法学部編　六五〇〇円
HLA in Asia Oceania　相沢幹ほか編　一八〇〇〇円
明治維新観の研究　田中　彰　四〇〇〇円
北のくらしと家政学　美土路達雄編著　六〇〇〇円

■慶應通信

新聞報道のあり方―その問題点を衝く―　生田　正輝　一八〇〇円
アリストテレス　日本倫理学会編　三〇〇〇円
日米開戦外交の研究―日米交渉の発端からハル・ノートまで―　須藤　眞志　三九〇〇円
近代イギリス政治思想研究―T・H・グリーンを中心にして―　萬田　悦生　三六〇〇円
社会学と歴史学　ピーター・バーク／森岡敬一郎訳　二二〇〇円
観察と実験の指導　文　部　省　一一〇〇円
新しい障害幼児の指導　中村四郎編　二五〇〇円
保健室の子どもたち　永井　瑞江　一四〇〇円
諸民族の音楽　三谷　陽子　一二〇〇円
日米外交比較論　H・M・ホーランド／池井優監訳　二五〇〇円
19世紀ヨーロッパ音楽　徳永隆男編　一一〇〇円
行刑の理論　吉田　敏雄　三九〇〇円
少年倶楽部の頃―昭和前期の児童文学―　桑原　三郎　三九〇〇円
明治自由党の研究(上)・(下)　寺崎　修　各二八〇〇円
法史学の諸問題　利光三津夫編著　六〇〇〇円
社会学と社会心理学　佐原　六郎　一八〇〇円
社会心理学　佐原　六郎　一六〇〇円
経済史讃 '86　渡辺國廣編　二二〇〇円

■産業能率大学出版部

円高・女時の経営　田辺　昇一　一二〇〇円
よい人生を生きる知慧　矢部　正秋　一三〇〇円
「青春」という名の詩　宇野収・作山宗久　一二〇〇円
新訂事務能率ハンドブック　産業能率大学編　七〇〇〇円
インデックス―その作り方・使い方―　緒方　良彦　二〇〇〇円
禅・無境界の経営　公方　俊良　一三〇〇円
最新エキスパート・システム　原田　行男　二〇〇〇円
実戦広告戦略　八巻　俊雄　二五〇〇円
情報散歩のすすめ　岩崎　隆治　一二〇〇円
小さくても儲かる会社・大きくても損する会社　新田　文雄　一三〇〇円
62年版税金対策　東　勇幸　一五〇〇円

成功する新事業開発マネジメント
産業能率大学事業開発研究会編　一三〇〇円
新しい社員研修の進め方　小橋　邦彦　二八〇〇円
「さとり」の方法　永野　武　一八〇〇円
外国人とのビジネス交渉術
E・サロモン／荒木陽子翻訳協力　一二〇〇円
強い会社は何がちがうか　渡辺庄一郎　一三〇〇円
上司と部下の職場交際術　青木　匡光　一二〇〇円
これからのOA　白旗　修　一八〇〇円
人間性の心理学〔改訂版〕A・マズロー／小口忠彦訳　四八〇〇円

■玉川大学出版部
ラファエロの宗教画―「宗論図」と「アテネの学園」の解釈―
H・ファルク＝イッター／新田義之・貴代訳　六五〇〇円
手あそび指あそび　吉本　澄子　二八〇〇円
高等教育の比較的考察―大学制度と中等後教育のシステム化―
喜多村和之　三五〇〇円
『日本教育史資料』の研究　日本教育史資料研究会編　九五〇〇円
ギリシア人の哲学と世界観　山川　偉也　三五〇〇円
ヘルバルトの教育的教授論　ガイスラー／浜田栄夫訳　四八〇〇円
遊戯とスポーツ　H・レールス／長谷川守男監訳　四八〇〇円
夢をもとめた人びと　全六巻　(1)発明・発見(2)探検・冒険(3)芸術・文化(4)愛と宗教(5)郷土開発(6)国際社会
玉川学園編　各一二〇〇円
大学のティーチング　J・ローマン／阿部美哉監訳　二八〇〇円
発展途上国への移住の研究―ボリビアにおける日本移民―
若槻　泰雄　一七〇〇円
劇あそびシリーズ　全六巻　(1)日常保育の劇あそび(2)ものを使った劇あそび(3)人形を使った劇あそび(4)音楽リズムの劇あそび(5)屋外の劇あそび(6)お誕生会の劇あそび
岡田・落合・清水編　各一二〇〇円
教育社会学　新堀通也・加野芳正　二四〇〇円

■中央大学出版部
戦後世界経済史概説　土屋　六郎　二六〇〇円
評伝トマス・ペイン　小松　春雄　三二〇〇円
階級・危機・国家　E・O・ライト／江川潤訳　二五〇〇円
計画計量経済学　A・ゾーバーマン／五井一雄監訳　五〇〇〇円
レッスン刑事訴訟法(下)　渥美　東洋　一七〇〇円
地方中核都市の産業活性化―八戸
中央大学経済研究所編　三〇〇〇円
英米民事法の研究　塚本　重頼　四八〇〇円
国際私法の諸相　桑田　三郎　五四〇〇円
Beiträge zum japanischen und ausländischen Bank- und Finanzrecht　山内惟介編著　三六〇〇円
迅速な裁判　小島　武司　五〇〇〇円
核兵器と科学者の責任
C・G・ウィーラマントリ／原善四郎・桜木澄和訳　一八〇〇円
日本国憲法の解説　須郷登世治　一五〇〇円

■東海大学出版会
SIPRI 年鑑1986　ストックホルム国際平和研究所編　一五〇〇〇円
語り―文化のナラトロジー―　日本記号学会編　二五〇〇円
松前重義と望星学塾　編纂委員会編　三五〇〇円
われら北欧人　W・ブラインホルスト　一八〇〇円
黒帯にかけた青春　山下　泰裕　一二〇〇円

老いの構図　太田　保世　一四〇〇円
大平正芳の政治的人格　吉田　雅信　一八〇〇円
小百合葉子と「たんぽぽ」　本田　節子　一八〇〇円
私の民俗学　谷川　健一　一九〇〇円
Thoughts on Religion and Life　松前　重義　三〇〇〇円
固体と地球のレオロジー　唐戸俊一郎ほか編　四五〇〇円
災害と人間行動　田中二郎ほか　二〇〇〇円
実験神経生物学　B・オークレーほか　六〇〇〇円
ゼニガタアザラシの生態と保護　和田一雄ほか編　六〇〇〇円
ニホンザルメスの社会的発達と社会関係　森梅代ほか　二〇〇〇円
コケ　井上　浩　二〇〇〇円
数学教育とコンピュータ　J・T・フェイ　一七〇〇円
水の華の発生機構とその制御　生嶋　功編　一六〇〇円
貝類　奥谷喬司ほか　二五〇〇円
淡水魚　川那部浩哉監修　二〇〇〇円
生物学二四講　佐藤温重ほか　二五〇〇円
ディジタル信号処理システム　持田侑宏ほか　三五〇〇円
パソコン Pascal プログラミング　永瀬　輝男　二五〇〇円
マイコン計測制御活用法　穴吹雅敏ほか　三五〇〇円
電気工学概論　松元崇ほか　三〇〇〇円
電子・情報・通信工学ガイド　菊池誠ほか　二七〇〇円
海洋立国をめざして　松前仰ほか　一五〇〇円
Brush Up Your English　甲斐迪ほか　一〇〇〇円
カスティリオーネ宮廷人　清水純一ほか訳註　一六〇〇〇円
イギリスの諷刺小説　内多毅監修　二二〇〇円
植物生態学論考　沼田　眞　一六〇〇〇円
進化論の基盤を問う　R・シュペーマン&R・レーヴ　三〇〇〇円

■東京大学出版会

スポーツ　東京大学　一八〇〇円
憲法秩序の理論　小林　直樹　五四〇〇円
現代を問う　宇沢　弘文　一五〇〇円
経済動学の理論　宇沢　弘文　三六〇〇円
経済法概説　松下　満雄　三四〇〇円
近代日本の技術と技術政策　中岡哲郎・石井正ほか　三八〇〇円
社会病理〈リーディングス日本の社会学13〉　宝月誠ほか　二五〇〇円
増補　ユートピアと権力(上)・(下)　升味準之輔　各一八〇〇円
地域産業政策　清成　忠男　一四〇〇円
ハレー彗星をとらえた　一九八五―八六年の写真記録　日本天文学会編　二八〇〇円
クロマチン　大場　義樹　一二〇〇円
科学研究のライフサイクル　山田圭一・塚原修一　三八〇〇円
Law and Justice in Tokugawa Japan Part IV-C　J. H. Wigmore編　九五〇〇円
Japan in the Global Community　Y. Murakami & Y. Kosai　二五〇〇円
文部省日誌　18　日本史籍協会　八〇〇〇円
貴族院委員会速記録　13　貴族院事務局　九〇〇〇円
衆議院委員会議録　13　衆議院事務局　九〇〇〇円
枢密院会議議事録　33　国立公文書館　九〇〇〇円
二十世紀の戦争と平和　入江　昭　一二〇〇円
日本・一九四五年の視点　三輪　公忠　一四〇〇円
歴史学入門　弓削　達　一八〇〇円
中世・近世の国家と社会　永原慶二・稲垣泰彦ほか編　六二〇〇円
ロベスピエールとドリヴィエ　遅塚　忠躬　四七〇〇円

日本人の国家生活　石井　紫郎　四八〇〇円
法治国理念と官僚制　日本国制史研究Ⅱ　宮崎　良夫　六二〇〇円
現代日本の公社債市場　志村　嘉一　三八〇〇円
化合物半導体エレクトロニクス　編集代表菅野卓雄　二八〇〇円
地震前兆現象―予知のためのデータ・ベース―　力武　常次　六〇〇〇円
Brown Melanoderma　T. B. Fitzpatrick, etc.　一四〇〇〇円
Modern Aspects of Species　岩槻邦男ほか　九〇〇〇円
文部省日誌　19　日本史籍協会　八〇〇〇円
貴族院委員会速記録　14　貴族院事務局　八〇〇〇円
衆議院委員会議録　14　衆議院事務局　八〇〇〇円
枢密院会議議事録　34　国立公文書館　九〇〇〇円
大地の子〈新しい世界史1〉　小谷汪之　一八〇〇円
スルタンガリエフの夢〈新しい世界史2〉　山内　昌之　二〇〇〇円
歴史的展開〈現代基礎心理学1〉　八木　晃編　二五〇〇円
認知科学の方法〈認知科学選書10〉　佐伯　胖　一八〇〇円
第二次世界大戦と現代　加藤周一・中井昌夫ほか編　一八〇〇円
世界の人口　河野　稠果　二八〇〇円
社会労働〈リーディングス日本の社会学10〉　似田貝香門ほか　二五〇〇円
日本経済と経済統計　林周二・中村隆英編　四九〇〇円
東京の社会地図　倉沢　進編　五八〇〇円
植物の細胞壁　増田　芳雄　一二〇〇円
光合成の暗反応　西田晃二郎　一二〇〇円
アクチンと調節タンパク質　丸山　工作　一二〇〇円
文部省日誌　20　日本史籍協会　八〇〇〇円
貴族院委員会速記録　15　貴族院事務局　八〇〇〇円
衆議院委員会議録　15　衆議院事務局　八〇〇〇円
枢密院会議議事録　35　国立公文書館　九〇〇〇円
太政官沿革志一　日本史籍協会　七〇〇〇円
太政官沿革志二　日本史籍協会　七〇〇〇円
絵はがき　東京大学教養学部の四季（一六葉）　師岡　宏次　八〇〇円
和風と洋式　京極　純一　一二〇〇円
父性的宗教　母性的宗教　松本　滋　一二〇〇円
ビラの中の革命―ウィーン・一八四八年〈新しい世界史3〉　増谷　英樹　一八〇〇円
発明者権の研究　中山　信弘　三九〇〇円
日本の金融(一)新しい見方　館龍一郎・蠟山昌一編　二五〇〇円
高齢者とスポーツ　宮下充正・武藤芳照編　一六〇〇円
21世紀への大都市像―現状と課題―　柴田徳衛編　五五〇〇円
免疫学入門〔第二版〕　狩野　恭一　一二〇〇円
分裂病の精神病理　15　高橋俊彦編　四二〇〇円
身近な気象の科学―熱エネルギーの流れ―　近藤　純正　二二〇〇円
SASによるデータ解析入門　竹内啓監修　二八〇〇円
文部省日誌　21　日本史籍協会　八〇〇〇円
貴族院委員会速記録　16　貴族院事務局　八〇〇〇円
衆議院委員会議録　16　衆議院事務局　八〇〇〇円
枢密院会議議事録　36　国立公文書館　九〇〇〇円
太政官沿革志三　日本史籍協会　七〇〇〇円
太政官沿革志四　日本史籍協会　七〇〇〇円
The Biological Role of Reactive Oxygen Species in Skin　Ed. by O. Hayashi & S. Imamura　九八〇〇円
Law and Trade Issues of the Japanese Economy

Ed. by C. R. Saxonhouse & K. Yamamura　五八〇〇円
開国の作法　平川　祐弘　一五〇〇円
朝鮮仏教史〈東洋叢書1〉　鎌田　茂雄　二四〇〇円
読むということ〈認知科学選書5〉　御領　謙　一八〇〇円
社会心理学研究入門　末永俊郎編　二九〇〇円
両眼視空間と幅輳の機能　日本心理学会編　三二〇〇円
教養の日本史　竹内誠・佐藤和彦ほか編　二〇〇〇円
現代家族〈リーディングス日本の社会学4〉　望月嵩ほか　二五〇〇円
国際環境の変容と日米関係　細谷千博・有賀貞編　五二〇〇円
国際労働力移動　森田桐郎編　六八〇〇円
総力戦体制と教育　寺崎昌男・戦時下教育研究会編　六八〇〇円
日本占領の研究　坂本義和、R・E・ウオード編　八二〇〇円
現代イギリスの労使関係(上)　戸塚秀夫・菊池光造ほか　六〇〇〇円
メキシコ・シティ〈世界の大都市3〉　大阪市立大学経済研究所編　三〇〇〇円
日本のシダ植物図鑑5　倉田悟・中池敏之編　一四〇〇〇円
新編日本被害地震総覧　宇佐美龍夫　二〇〇〇〇円
最適制御入門　加藤寛一郎　三八〇〇円
明恵上人資料　第三　高山寺典籍文書綜合調査団編　二四〇〇〇円
文部省日誌　22　日本史籍協会　八〇〇〇円
貴族院委員会速記録　17　貴族院事務局　八〇〇〇円
衆議院委員会議録　17　衆議院事務局　九〇〇〇円
枢密院会議議事録　37　国立公文書館　九〇〇〇円
太政官沿革志五　日本史籍協会　七〇〇〇円
太政官沿革志六　日本史籍協会　七〇〇〇円
Human Ecology of Health and Survival in Asia and South Pacific　Ed. T. Suzuki　R. Ohtsuka　三八〇〇円
The Political Dynamics of Japan　Jun-ichi Kyogoku　三八〇〇円
静かな革命〈新しい世界史4〉　南塚　信吾　一八〇〇円
認知とパフォーマンス　梅本堯夫（補稿・東洋）　一八〇〇円
権威的秩序と国家　藤田勇編著　八五〇〇円
日本財政要覧〔第三版〕　武田隆夫・林健久・今井勝人編　二〇〇〇円
重化学工業都市の構造分析　島崎稔・安原茂編　一四八〇〇円
電磁気学　加藤　正昭　二二〇〇円
応用熱力学　斎藤　孝基　二五〇〇円
東洋における人間観　前田専学編　七八〇〇円
日本周辺海溝の地形と構造　海溝I研究グループ編　一三五〇〇円
東京大学百年史　部局史二　東京大学　八〇〇〇円
東京大学百年史　部局史三　東京大学　八〇〇〇円
Japan's High Technology Industries　H・パトリック編　六〇〇〇円
Theoretical and Applied Mechanics, Vol. 35　塩入淳平編集代表　一八〇〇〇円
貴族院委員会速記録　18　貴族院事務局　八〇〇〇円
衆議院委員会議録　18　衆議院事務局　九〇〇〇円
文部省日誌　23　日本史籍協会　八〇〇〇円
太政官沿革志七・八　日本史籍協会　各七〇〇〇円
九篠尚忠文書四　日本史籍協会　八〇〇〇円

■東京電機大学出版局

実践工業科教育法　小山田了三　二二〇〇円
新方式三種電験　電気機器・材料　三好　正二　二三〇〇円
核エネルギーの世界〈ハイテク選書〉　鈴木　穎二　一二〇〇円

図解　アナログＩＣのすべて　白土　義男　二九〇〇円
繊維〔三訂版〕　石川欣造監修　二三〇〇円
62年春季二種情報処理問題解答集　東京電機大学出版局編　二四〇〇円
2技―2通受験教室　無線工学の基礎Ｉ　松原　孝之　一七〇〇円
電気法規と電気施設管理〔六訂版〕　竹野　正二　一七〇〇円
エネルギー変換技術　エネルギー変換懇話会・日本科学技術振興財団編　二八〇〇円
電気通信技術者のための　図解　トラヒック理論　大久保弘六　一八〇〇円
半導体工学〈理工学講座〉　深海登世司監修　三二〇〇円
システム工学入門〈理工学講座〉　松永　省吾　二六〇〇円
図解マイコン　はじめてのパソコン計測・制御　天良和男・矢野越夫　一九〇〇円
高校生のための基礎ＢＡＳＩＣ　秋冨勝ほか　九五〇円
高校生のための応用ＢＡＳＩＣ　秋冨勝ほか　一二〇〇円
水力発電〈新電験シリーズ〉　東京電機大学編　一三〇〇円
入門データ通信　黒田　康太　一九〇〇円
照明工学講義〈理工学講座〉　関　重広　二〇〇〇円
染色〔三訂版〕　近藤一夫監修　二四〇〇円
送配電〔新訂版〕　前川幸一郎・荒井聰明　二五〇〇円
都心の土地と建物　八木澤壯一ほか　一二〇〇〇円

■東京農業大学出版会

画像情報処理の基礎　伊東　晋　四〇〇〇円
建築構造設計のための力学入門　富澤　稔　三六〇〇円
物理化学実験法　増田勇三・野村浩康　二七〇〇円

■法政大学出版局

哲学の起源　オルテガ・イ・ガセット／佐々木孝訳　二四〇〇円
ニュートン力学の形成　ゲッセン／秋間実ほか訳　三〇〇〇円
ひも〈ものと人間の文化史57〉　額田　巌　二〇〇〇円
フィヒテの根源的洞察　ヘンリッヒ／座小田豊ほか訳　二二〇〇円
ミツバチの不思議〔第2版〕　フリッシュ／伊藤智夫訳　一六〇〇円
遊びの遊び　J・デュビニョー／渡辺淳訳　二〇〇〇円
ベンガル歴史風土記　小西　正捷　二八〇〇円
中世村落の構造と領主制　田端　泰子　六五〇〇円
儀礼としての相互行為　ゴッフマン／広瀬・安江訳　二九〇〇円
技術時代の魂の危機　A・ゲーレン／平野具男訳　二二〇〇円
藤原定家―美の構造―　吉田　一　一三〇〇円
他者の記号学　T・トドロフ／及川・大谷・菊池訳　二八〇〇円
妖術師・秘術師・錬金術師の博物館　グリヨ・ド・ジヴリ／林瑞枝訳　三九〇〇円
守護領国支配機構の研究　今谷　明　八九〇〇円
現代政治理論における人間像　高山　巌　五五〇〇円
日本古代氏族と王権の研究　前川　明久　八二〇〇円
カント政治哲学の講義　アーレント／浜田義文監訳　二八〇〇円
人類学と文化記号論　M・サーリンズ／山内昶訳　二八〇〇円
田岡嶺雲全集　第二巻「評論及び感想二」　西田勝編〔第三回配本〕　一四八〇〇円
親鸞の思想と七高僧　長石　武夫　三八〇〇円
エルザの夢―新しいワーグナー像を求めて―　三光　長治　二八〇〇円
秩序と無秩序　J・－P・デュピュイ／古田幸男訳　二八〇〇円

象徴の理論　T・トドロフ／及川馥・一之瀬正興訳　三九〇〇円
ヘーゲル読本　加藤尚武編　二五〇〇円
希望の心理学　P・ワツラウィック／長谷川啓三訳　一六〇〇円
日本電子産業の海外進出　法政大学比較経済研究所編　三〇〇〇円
ロンドン散策　F・トリスタン／小杉・浜本訳　三九〇〇円
経済学の考え方　時永　淑　二〇〇〇円
干渉―ヘルメスⅡ―　M・セール／豊田彰訳　二八〇〇円
資本とその分身　M・ギョーム／斉藤日出治訳　二四〇〇円
ピエール・ベール著作集　第五巻「歴史批評辞典Ⅲ」
野沢協訳・解説〔第五回配本〕三八〇〇〇円
「レフト」機関誌／労働者1　法政大学大原社研編　一五〇〇〇円
「レフト」機関誌／労働者2　法政大学大原社研編　一五〇〇〇円

■明星大学出版部
日本の芸術教育論　立原慶一編　二五〇〇円

■早稲田大学出版部
東京も膨張を止める―都市と自動車時代―　角本　良平　一五〇〇円
小野梓の研究　早稲田大学大学史編集所編　四五〇〇円
早稲田大学出版部一〇〇年小史　早稲田大学出版部編　一〇〇〇円
小野蘭山　本草綱目啓蒙―本文・研究・索引―〔新装版〕
杉本つとむ編著　二五〇〇〇円
新国際秩序と平和〈講座平和学Ⅳ〉
日本平和学会編集委員会編　二二〇〇円
平和研究第11号　特集・日本型管理社会と労働
日本平和学会編　二二〇〇円
科学哲学19　特集・言語理解―人間と機械
日本科学哲学会編　一七〇〇円
早稲田大学蔵資料影印叢書一六　古文書集三
早稲田大学蔵資料影印叢書刊行会編　一五〇〇〇円
アジア文化第11号　特集・儒家倫理思想と教育
アジア文化総合研究所編　一三〇〇円
現代政治分析理論　福岡　政行　二五〇〇円
大正期　日本金融制度政策史　渋谷隆一編著　八五〇〇円
日本鉄鋼業史研究―鉄鋼生産構造の分析を中心として―
堀切　善雄　四三〇〇円
解体新書の時代―江戸の翻訳文化をさぐる―
杉本つとむ　二〇〇〇円
二一世紀の日本と早稲田大学の役割〈リカレントブックス11〉
西原　春夫　四五〇円
スウェーデンは、いま―フロンティア国家の実像―
岡沢　憲芙　一五〇〇円
〈早稲田選書7〉
早稲田大学蔵資料影印叢書八　室町物語集
早稲田大学蔵資料影印叢書刊行会編　一五〇〇〇円
親鸞とルター―信仰の宗教学的考察―　加藤　智見　二六〇〇円
アレクサンドル一世時代史の研究　山本　俊朗　三〇〇〇円
スウェーデン　ハンドブック
スウェーデン社会研究所編　二三〇〇円

■名古屋大学出版会
バイオテクノロジーと食料革命
松尾幹之・鵜高重三編　一八〇〇円
ポーランドにおける法と道徳　アントニ・コシチ　三二〇〇円
栄花物語語句索引―付属語編並に語構成別綴字逆配列語彙―
松村博司・進藤義治・田島毓堂編　一〇〇〇〇円

日本の技術進歩と産業組織―習熟効果による寡占市場の分析―　西田　稔　三五〇〇円
アミロイドーシス―皮膚と全身―　大橋　勝編　九八〇〇円
漱石漢詩研究資料―用字用語索引・訓讀校合―　高木　文雄　七〇〇〇円
国際金本位制と中央銀行政策　藤瀬浩司・吉岡照彦編　五〇〇〇円
日本企業の国際化―資本・経営・技術移転―〈国際経済摩擦研究叢書3〉　小川英次・木下宗七・岸田民樹編　二〇〇〇円
天正大地震誌　飯田　汲事　六五〇〇円
経済・経営の構造変化と対応策―日本と西ドイツの比較研究―　水野正一、Th・ダムス編　三二〇〇円

■関西大学出版部

釜山窯の史的研究　泉　澄一　一三〇〇〇円
英米国際私法判例の研究　国際私法序論　本浪　章市　九四〇〇円
労使関係史論―ドイツ第2帝政期における対立的労使関係の諸相―　大塚　忠　七八〇〇円
介護と治療―医療と福祉に関する道徳哲学―　R・S・ドウニー&E・テルファー／雀部猛利訳　五〇〇〇円
マラルメ詩集　S・マラルメ／加藤美雄訳　二四〇〇円

■九州大学出版会

PCBと複合汚染の医学（補遺）　田中　潔　六〇〇円
現代化学入門　E・メーヤー／崎川範行・小林三二訳　五四〇〇円
D・H・ロレンスの詩　飯田　武郎　二九〇〇円
近代の短編小説（明治篇）　現代文学研究会編　一八〇〇円
近代の短編小説（大正篇）　現代文学研究会編　一八〇〇円
日本経済と第三次産業〔第2版〕　飯盛　信男　二〇〇〇円
行政国家　D・ワルドー／山崎克明訳　五八〇〇円
対馬藩郷士制度史料　佐須郷・豆酘郷給人奉公帳　中村正夫・梅野初平編　五〇〇〇円
対馬藩郷士制度史料　與良郷給人奉公帳　中村正夫・梅野初平編　五〇〇〇円
農産物市場構造と流通　梅木利巳編著　三〇〇〇円
現象学からスコラ学へ　E・シュタイン／中山善樹編訳　三三〇〇円
西欧中世における都市と農村　G・デュビーほか／森本芳樹編　三二〇〇円
日本の総選挙一九八六年―同日選挙、自民党三〇〇時代の登場―　杣　正夫編　三〇〇〇円
映画学から映像学へ―戦後映画理論の系譜―　岡田　晋　三二〇〇円
トマス主義の憲法学―国法学論文選―　水波　朗　六五〇〇円
トマス主義の法哲学―法哲学論文選―　水波　朗　六五〇〇円
日本における海洋民の総合研究(上)―糸満系漁民を中心として―　中楯興編著　四八〇〇円
「佐賀の役」と地域社会　長野暹編著　五五〇〇円
ドイツ社会民主党と農業問題　原田　溥　五〇〇〇円
華僑社会経済論序説　市川　信愛　三五〇〇円
新版　現代信用理論批判　岡橋　保　四五〇〇円
心臓活動の神経性調節とその病態　有田真・入沢宏編　八〇〇〇円
交通安全の研究　中島　源雄　七〇〇〇円
農業構造の変容と展望　江島・土屋・川波編　三三〇〇円
ナショナリズムと現代〈北九州大学法政叢書6〉　山口　圭介　三八〇〇円

第8回（昭和61年度）日本生命財団刊行助成図書

刊行期間　昭和62年4月～昭和63年3月

●日本生命財団は優れた研究成果でありながら出版の困難な学術専門書を対象に大学出版部協会加盟出版部に刊行助成を行なっている（既刊95点）

有珠山―その変動と災害―	門村浩（東京都立大学理学部教授）ほか編	北海道大学図書刊行会
知床の動物	大泰司紀之（北海道大学歯学部助教授）ほか編	北海道大学図書刊行会
備前心学をめぐる論争書	小澤富夫（玉川学園女子短期大学教授）編著	玉川大学出版部
日本近代学校成立史の研究	多田建次（玉川大学文学部助教授）著	玉川大学出版部
非行抑止に関する社会心理学的研究	高橋良彰（警察庁科学警察研究所防犯少年部補導研究室主任研究官）著	東海大学出版会
生物時計の遺伝学	大島長造（国立遺伝学研究所名誉所員）著	東海大学出版会
廣開土王碑原石拓本集成	武田幸男（東京大学文学部教授）編	東京大学出版会
原典放射線障害一八九五―一九四四	舘野之男（放射線医学総合研究所臨床研究部長）編訳	東京大学出版会
文化としての近代科学―その歴史的・学際的関連―	渡辺正雄（東京電機大学工学部教授）著	東京電機大学出版局
地域社会の民俗学的研究	岩井宏實（国立歴史民俗博物館民俗研究部教授）著	法政大学出版局
雷放電現象	竹内利雄（名古屋大学空電研究所助教授）著	名古屋大学出版会
Neonatal Brain and Behavior（新生児の脳と行動）	藪内百治（大阪大学医学部教授）著	名古屋大学出版会
長崎外国人居留地の研究	菱谷武平（長崎大学名誉教授）著	九州大学出版会

●あとがき――

「大学出版部協会総合図書目録」の一九八七年版がこの一月につくられた。協会の大学出版部運動のはじめての具体的な活動は、一九七二年（昭和四十七年）の十月に行なわれた図書目録の共同発送であった。以後年一回定期的に行なわれその形態もいくつかの試行錯誤をくりかえした後、現在の合本形態「大学出版部協会総合図書目録」として刊行されるようになったのは一九七八年度版からである。協会報「大学出版」同様、大学図書館五九五、短大・公共図書館八三〇、大学生協二二五など二〇〇〇部が配布され、大方の好評を得ている。重量一三〇〇グラム、大学出版部活動の重みでもある。

協会活動が、三月九日の朝日新聞の全国版で紹介された。「刊行内容広がる大学出版部」と「一般向け〝教養書〟まで『売れなくても、まず良い本』の見出しが目立つ。加盟校全体では、毎年五百点以上の発行、アカデミックなものから、時代の関心の対象をタイムリーにとらえた書物、さらに研究書でも地域性、郷土色の強いものなど、多様化と個性化が目立つ、と解説し、目録の共同発送、昨年四月からはじめた新刊速報活動が紹介された。大学出版部の時代の変化に対応している健闘ぶりが関心をひいているようだ。

またリクルートの高等教育専門誌「カレッジマネジメント」二十三号で「大学出版事業の採算――UIのメリットあるが苦しい経営」と紹介された。ユニバーシティー・アイデンティティーの観点から出版事業が注目されている。大学が出版部を持つ意味は何か、どうやれば上手に事業展開できるのか、その事例を東大出版会、産業能率大学出版部に取材しあわせて大学出版部協会加盟十六大学の概要として、組織形態、設立年、職員数、最近三カ年の刊行点数、活動内容等が紹介されている。

「新文化」九月十八日号一面に「大学図書館・収書に積極策」として出版部協会の〝大学図書館への新刊見計い納品の促進と拡大〟既刊本の蔵書調査の実施〟活動が紹介された。「北海道新聞」二月十六日号には「大学出版部協会総合図書目録」一九八七年版が紹介された。

さて、早いもので来年度で協会も設立二十五周年、四半世紀を迎えることになる。日本の大学出版物展開催などの大物イベントが企画などにあがっているが、私たち自身節目節目に〝大学出版部運動〟とは一体何なのか、社会にあってどのような役割を荷っているのか、という本筋を改めて見直すという機会になってもよいのではないかと考える。前記のUI（ユニバーシティー・アイデンティティー）の観点も大変有意義であろう。協会加盟大学出版部はもちろん、日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパなどの大学出版部、国際学術出版連合などの協力をも得て、現状と展望を探ってみたい。編集部会の課題である。

（編集部会担当幹事　関野利之）

●大学出版部協会営業部会担当者（一九八七年四月一日現在）

営業部会担当幹事	阿部　好文	○三―二三七―一七三一
北海道大学図書刊行会	管波　秀樹	○一一―七四七―二三〇八
慶　應　通　信	高樹　忠身	○三―四五一―三五八四
産業能率大学出版部	山本　一雄	○三―七二四―九一〇一
玉川大学出版部	久保浩一郎	○四二七―二八―三二一一三
中央大学出版部	水村　松泉	○四二六―七四―二三五一
東海大学出版会	松岡　茂和	○三―三五六―一五四一
東京大学出版会	※惣塚　一雄	○三―八一二―六八六二
東京電機大学出版局	桑田　佳雄	○三―二九一―九六六六
東京農業大学出版会	菊地　徳治	○三―四二〇―二一三一
東京理科大学出版会	能城　　隆	○三―二六〇―四二七一
法政大学出版局	鎌田　靖彦	○三―二三七―一七三一
明星大学出版部	三浦　邦宏	○三―八一七―〇七〇一
早稲田大学出版部	唐沢　幹雄	○三―二〇三―一五五一
名古屋大学出版会	伊藤　八郎	○五二―七八一―五〇二七
関西大学出版部	井内　雄二	○六―三八八―一一二一
九州大学出版会	鳥井　四朗	○九二―六四一―〇五一五

※　部会長

ISSN 0913-3305

大学出版部協会加盟出版部一覧

北海道大学図書刊行会	〒060 札幌市北区北８条西８丁目 クラーク会館 TEL.０１１－７４７－２３０８
慶應通信	〒108 東京都港区三田２－19－30 TEL.０３－４５１－３５８４ FAX.03-451-3122
産業能率大学出版部	〒152 東京都目黒区自由が丘2－16－5 自由が丘サンビル4F TEL.０３－７２４－９１０１ FAX.03-717-4346
玉川大学出版部	〒194 東京都町田市玉川学園６－１－１ TEL.０４２７－２８－３２１３ FAX.0427-28-3218
中央大学出版部	〒190-03 東京都八王子市東中野742－１ TEL.０４２６－７４－２３５１ FAX.0426-74-2354
東海大学出版会	〒160 東京都新宿区新宿３－27－４ 新宿東海ビル TEL.０３－３５６－１５４１ FAX. 03-341-1833
東京大学出版会	〒113 東京都文京区本郷７－３－１ 東京大学構内 TEL.０３－８１１－８８１４ FAX.03-812-6958
東京電機大学出版局	〒101 東京都千代田区神田錦町２－２ TEL.０３－２９４－１５５１
東京農業大学出版会	〒156 東京都世田谷区桜丘１－１－１ TEL.０３－４２０－２１３１FAX.03-706-8851(総務課)
東京理科大学出版会	〒162 東京都新宿区神楽坂１－３ TEL.０３－２６０－４２７１ FAX.03-260-4294
法政大学出版局	〒102 東京都千代田区富士見町２－17－１ TEL.０３－２３７－１７３１ FAX.03-237-8899
明星大学出版部	〒191 東京都日野市程久保2-1-1 TEL.０４２５－９１－５１１５FAX.0425-93-0192
早稲田大学出版部	〒160 東京都新宿区戸塚町１－103 TEL.０３－２０３－１５５１ FAX.03-207-0406
名古屋大学出版会	〒464 名古屋市千種区不老町１ 名古屋大学構内 TEL.０５２－７８１－５０２７
関西大学出版部	〒564 吹田市山手町３－３－35 関西大学会館 TEL.０６－３８８－１１２１
九州大学出版会	〒812 福岡市東区箱崎７－１－146 九州大学構内 TEL.０９２－６４１－０５１５

大学出版(第３号)'87春　昭和62年５月１日発行　発行者 大学出版部協会幹事長　石井和夫
〒113 東京都文京区本郷７丁目３番１号東大構内 東京大学出版会内　電話 03-812-2111(内)7954
頒布価格100円(〒共)